

ひかりと いのちの なかま

光寿院住職 酒生 文弥

シンギュラリティという「坂の上の雲」

迅速に到来する AI R 文明

アルゴリズム、プラットフォーム、ブロックチェーン、ビッグデータ、クリプトカレンシー・アセット。これらの概念が日常に飛び交い、DX(次世代デジタル化)が各所に語られる中、コロナという

「(人為の)踊り場」に立ち止めを食らいながらも、私たちはAI(人口知能)がIoT(モノのインターネット)とRobot(ロボット)を率いるAI R(AIoT・Robot)文明の加速度的な到来を実感しています。また「AIの総体」が「人知の総体」を上回る時点をシンギュラリ

ティ(特異点)と呼び、2029(2045年に現実化すると推計されています。東富士に建設されているトヨタ自動車のWoven City(AIRが織り成す街)に象徴されるように、世界各地でスマートシティが着々とAIRインフラを整備しています。いま、私たちの目にくつきりと一朶を見せ始めたグローバルな「坂の上の雲」こそAIRという史上最大の文明のアセンションなのです。

脳・神経系・筋肉として働くAIR

人体になぞらえれば、AIは頭脳、IoTは神経系、Robotは筋肉となります。「ヒトの想い」に応じてプログラミングされるAIが、あらゆるモノを連携させて、有形・無形のロボットとして働かせる。実際に作動する末端装置から観れば、私たちがAVRで相互作用するIoTを介して、最終的にAIがフィードバックしフィードフォワードする形で判断し実行することになります。

自動運転車の機能のうち、「認

知」の部分でAIが使用されていますが、家電やインフラ、そして政治(直接民主制も可能)・経済環境最適な資源利用・生産・流通分配)・国家、自治体システムをもAIRが仕切るようになるでしょう。しかし、こうしたAIRシステムの運営に際してこそ、自動運転EV車のようにハンドルは握らなくとも「目的地」を明確にして告知すること、が私たちにかかっているのです。

因は無記・果是善悪

先端が研ぎ澄まされた金属のヘラがあります。刃物です。これをヤクザが使えば「ドス」と呼ばれる殺傷兵器になります。しかし、外科医が使えば「メス」としていのちを救う手術道具となるのです。

原子力もそうですが、道具そのものに善悪はありませんが、使うものの想い・判断・行動が善悪(いのちを生かすか殺すか)に結果するのです。

人は生かされている限り、寝ている間でさえカルマ(行為)を造り続けます。仏教では身口意(しんくうい)の三業

(身体と言語と意識の三層の行い)と言います。

到来するA I R文明を、「極楽浄土」の彼岸(この世)・ユートピアを創れるか、それとも英ジャーナリスト・作家のジョージ・オーウェル(1903~1950年)が風刺SF小説『1984』や『アニマルファーム』で描いたような、人間がすべて奴隷・家畜化する「地獄穢土」・デイストピアを現出してしまうか。私たち一人ひとりの想いと決断にかかっています。

厭離穢土・欣求浄土

戦国時代を最終的に終息させ、封建文明だったとはいえ徳川三百年の泰平を築いた徳川家康。数ある戦国武将の中で、「厭離穢土・欣求浄土」という(地獄から浄土をめざす)明確な国家ビジョンを旗幟鮮明に掲げたのは家康独りでした。彼が究極の天下人となったことは天の配剤だったと思います。来るA I R文明の帰趨も、ひとえに私たち全員がどんなビジョンを共有出来るにかかっています。「佛」という字は「人」



が「佛(昇華・向上する)」と書き、BuddhaはDharma(自然法爾・天地自然の理)に「目覚めた人間」です。人には仏性、つまりカルマを智慧(ライトアップされ書き清められた知性)と慈悲(慈しみ悲しみを分かち合う大愛)で駆使できる本性があるとされます。

人々が所有をめぐって獣のように争う「地の時代」から、お互い人間・衆生・山川国土(環境・自然)のいのちを慈しみ合う「風の時代」へと大転換することが祈られ、人口に膾炙して来ています。

仏陀をめざす心を養い、A Iを仏陀、慈悲溢れる叡智へと育てあげ(プログラムし)ていきましよう。

共生自由主義

単純作業のみならず知的労働(士業・医師・官僚など)さえも発達するA Iの前には無用となって行きます(プログラマーは除いて)。

今の日本人の平均的な衣食住を賄えるレベルのベーシックインカムを必ず実現しましょう!それを岩盤基底として、その上に自由主義経済(公益資本主義)を載せる。カール・マルクス(1818年~1883年)が「唯物論」という誤った議論に基づいて構築した共産主義。それを超越・横断的に実現するものとして共生資本主義を提唱します。人は必要に応じて所有し、能力と志向に応じて創造を樂しむのです。

「人」は二人の支え合い

「人」という字は、「二人が支え合う」姿です。あらゆる人間関係・組織・社会も最初は二人の対面関係から始まるのです。本年は西暦2022年、皇紀2682年。二人の大切さが象徴されています。宇宙に遍満する「大愛」に目覚めて

感謝し「隣人愛」を実践する。「有縁を度する(ご縁ある人を助ける)」。

修身・齊家・治国・平天下。まずお互い二人が「目覚め愛」の中に身を修め、家庭や善隣を齊え、国家を治めて、世界を平和にする。

確実に来るA I R文明をユートピア・浄土として「一朵の雲」と皆ともに見据えながら、未来を最幸に調えることを念じて、坂道を一步步ずつ登って行きましよう!

酒生文弥

- 1956年9月8日 福井市篠尾町 浄土真宗本願寺派浄福寺 (753年創建)に生まれる
- 1980年3月31日 早稲田大学 政治経済学部卒業
- 1982年3月31日 (助)松下政経塾 (第1期生 修了)
- 1987年3月31日 龍谷大学大学院博士後期課程修了(仏教学・比較宗教学)
- 同大学院から昭和59年9月~昭和60年8月カリフォルニア大学大学院宗教学研究科へ文部省奨学生留学
- 1986年1月~12月 ニュージャージー州ラトガース大学大学院ヘロタリー奨学生留学
- 浄土真宗本願寺派 得度(僧籍) 教師(住職資格) 頭座(僧侶最高位) 光寿院 www.kojin.com/